

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 46

学校名・団体名	岐阜市立青山中学校
HPアドレス	<a href="http://cms.gifu-gif.ed.jp/seizan-j/">http://cms.gifu-gif.ed.jp/seizan-j/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	21世紀型スキルを高める機能的スペースの創造
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>生徒が生きるこれからの社会は、予測不能と言われるほどの急激な変動が予想される。その中を生き抜いていく生徒に付けるべき力は、次の3つと考え、本年度から三年間をかけて実践研究に取り組むものである。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 自らの意志を伝えるコミュニケーション能力</li><li>② 自分の力と他者のそれとを協働して生み出すコラボレーション能力</li><li>③ 新たな価値や概念、よりよいものを生み出すイノベーション能力</li></ol> <p>これらの力を切磋琢磨する特別な空間としての教室環境を構成し、1つは、激しく考えをぶつけ合う部屋「B-Agora」と静かにじっくりと考える部屋「W-Agora」と改名)の2室を、職員のアイデアと保護者を交えた協議・協働作業により創出する。</p>	

まずもって、ちゅうでん教育振興助成の対象校としていただかなければ成すことができなかった学びの環境 Agora が生まれましたことに、厚く御礼申し上げます。

折しも、昨年 11 月 3 日（金）に本校の中間研究発表会が開催され、339 名の教育関係者のほか、教員を志す多数の学生や保護者が授業を参観されました。書いていただいたアンケート及び生徒の授業の様子を示す写真等から、活動・研究報告として紹介させていただきます。

## 1 Agora での授業を参観された教育関係者、実践した教師・生徒の感想

### 【教育関係者】

- ・「生徒が、自分の考えをホワイトボードに構造的に整理し、それを他の生徒に伝えようとしていた。聞き手の生徒は書かれた考えを視覚化でき、そこに新たな考えを書き加えたりして、互いに考えを広げ、深めていた。ホワイトボードに囲まれ、これを全員の生徒が利用できる。正直、うらやましい。」
- ・「机・椅子が邪魔をしていないので広い空間が保障され、生徒は教室空間を自在に移動し、自分の考えを伝えようとしていたり、友達に聞きに行ったりしていた。説明している生徒もいれば、自分の考えと向き合っている生徒もいて、その子に応じた多様な学びが保障されている。」
- ・「生徒たちに変な堅さがなく、学ぶ雰囲気は自然体で、相手を意識した発言が多い。爽やかに集中しているというか、自分から主体的に取り組むエネルギーを感じた。」

### 【保護者】

- ・「新たな学びということでアクティブ・ラーニングということを知るが、この教室で生徒が生き生きと学んでいる様子を見て、僕らの中学校のときの一斉の授業とは随分違っていて驚きました。」
- ・「社会科の授業を観たけど、校長先生、凄いね、あの部屋。もうびっくりした。まさしく、話し合いの授業にはピッチシンの環境で、新しい時代になったなあと感じました。いろんな可能性のある教室ですね。」

### 【生徒】

- ・「社会の授業は W-Agora でしたい。自分の考えを自由に書いたり消したりできるし、教室だと発表を聞いただけでは分からなくなることがあるけど、書かれてあるから、自分とどうちがうのか、何を言いたいのかがよく分かって、考えやすい。」
- ・「自分で考えを聞いてみたい人のところへすぐに行ける。分からないことも気軽に聞くことができる。他の子の意見を聞いて反応しやすい。普通の教室で勉強するよりも集中できて、充実した時間が過ぎる。」

### 【本校・利用した教師】（利用実績：80 時間／月、開室 1 ヶ月で利用した教員率 78.2%／12 月末調査）

- ・「ホワイトボードに囲まれた環境で、小グループごとに 1 つの課題を追求するのにとても有効である。」
- ・「ホワイトボードに自分の考えを書くことで、自分の考えを再認識したり、仲間の意見を可視化でき、互いに意見を聞かせている姿が多く出る。」
- ・「生徒が考えを発言しやすい空間で、討論するのに大変有効で、生徒も意欲的です。」
- ・「学級のリーダーの話し合いで使いましたが、リラックスした雰囲気で和やかに話せます。」
- ・「机など隔てるものがないので、交流は生まれやすい。発言者との距離が近く、安心感をもつことができるのか、話し合いがしやすかった。」
- ・「Agora という特別な場所で授業ができるという喜びがある。Agora という場所で何をするのかの意味が明確なため、生徒も活発な意見が出せている。」

## 2 使い込む生徒が Agora の価値やその可能性を引き出してくれるだろう

計画段階で私が考えた 2 つの Agora の名称は、生徒会の公募により却下され、その結果、みんなで討議（Battle）する空間「B-Agora」と、考えをホワイトボードに書き（Write）他者に伝える、畳のある和（Wa）の空間「W-Agora」となった。今後、生徒はこの教室をどう呼ぶのか。使い慣れてきた生徒たちは「B」や「W」なのか、それとも「バゴラ」「ワゴラ」と呼ぶのか、楽しみである。Agora での授業を楽しみにしている生徒は多い。年が明けた 2 月には、各学級の教科係長により構成される生徒会・教科学習部の提案で、『最高の授業自主公開』の取組が行われた。教科学習部は、各学級の学習に向かう質的な高まりを求める委員会の 1 つである。それぞれの学級が立てた学習目標を具現するための授業を公開し、教科学習部の生徒が参観し合い、互いのよさに学び合う。公開教科の希望調査をしたところ、全 13 学級中 6 学級が社会科を、5 学級が理科を、2 学級が数学科の公開を希望した。社会科の授業はすべて、Agora で実施された。

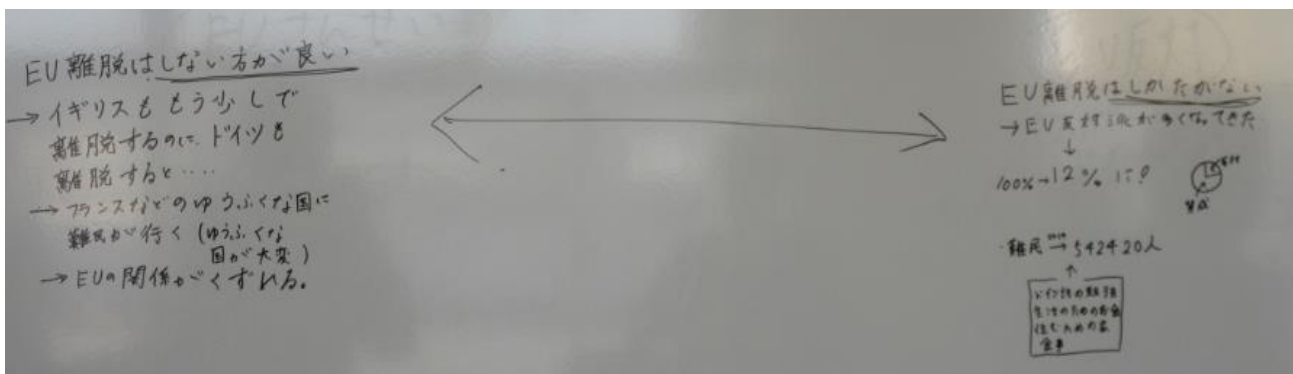
創作空間 Agora の可能性は大きく、この環境を活かす教師の授業力が最大の課題である。これから 2 年間、Agora の機能を高め、21 世紀を生き抜く生徒が「より積極的に他者の意見を探索したり、関連付けたり、統合したりする力」=『コラボレーション能力』を高める実践研究に取り組んでいく。2 月 11 日に開催された S 社のペッパー・プログラミングコンテスト全国大会で、本校の 3 人の生徒が Agora で磨き上げたプログラミングとプレゼンが高く評価され、全国 1 位の金賞に輝き、3 月にシリコンバレーに渡米することが決まった。

本校の研究はまだ緒に就いたばかりであるが、今回の助成には心から感謝申し上げます。今後ともご指導・ご支援のほど、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○ B-Agora での授業の様子 (教室のあちこちで討議している様子)



○ W-Agora での授業の様子 書く生徒、話す生徒



生まれ替わった教室W-Agora  
 薄茶色カーペット、畳上の机、  
 サイドの机兼椅子10脚、壁面  
 は全面に固定ホワイトボード